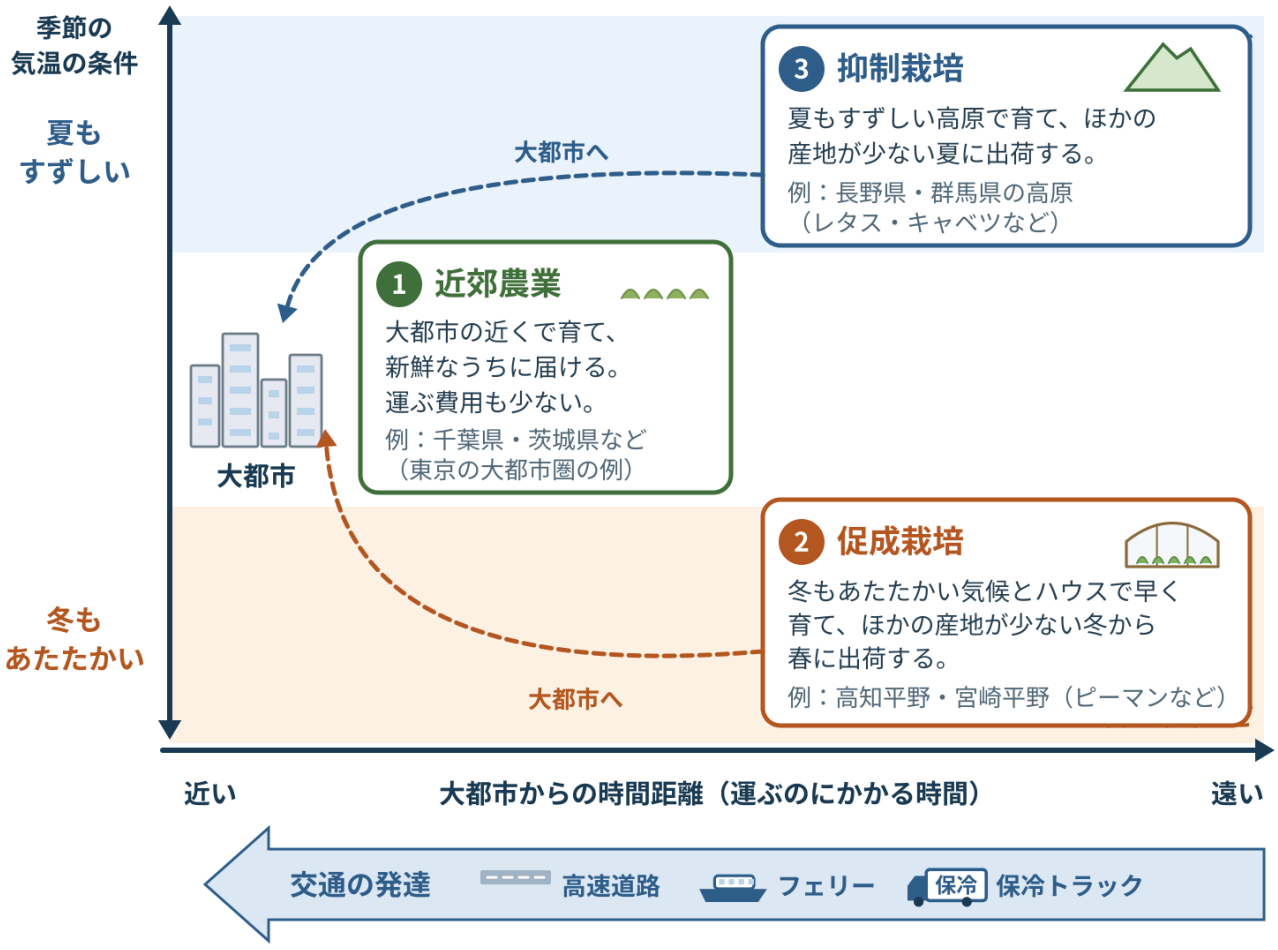
距離と気候で見る野菜の産地（近郊・促成・抑制）

大都市から遠い産地は、どんな条件を生かして大都市向けの野菜をつくっているのでしょう

2つの軸に置いて見る、野菜の産地の3つの型（模式）



遠い産地からも、新鮮なまま短い時間で大都市へ届くようになった（時間距離が縮まる）

遠い産地が大都市へ出せるわけ

気候を生かして、ほかの産地が少ない時期に出す

↓

市場に出回る量が少ないので、高い値段で売れやすい

↓

運ぶ費用がかかっても、利益を出しやすい

交通の発達が支える

運ぶ時間が短くなり、冷やしたまま運べるので、遠くても新鮮に届く

近い産地の強み

新鮮さと、運ぶ費用の少なさ

課題

ハウスの燃料代や運ぶ費用が上がると、利益が減る。輸入野菜との競争もある。

※ 模式図。軸は数値の目もりではない。産地と作物は例で、地図と統計の数値は使っていない。